積極的に行われるべきものであるが、重症度そのものがその施行に影響している可能性が考えられた。

PD-60.

Right gonadal arteries as running behind inferior vena cava

(Department of Anatomy)
○Hayato Terayama, Munekazu Naito, Shogo Hayashi, Yoichi Nakamura, Takayoshi Miyaki, Masahiro Itoh

The testicular and ovarian arteries usually arise from the anterior wall of the abdominal aorta below the renal artery. Especially, the right arteries pass anterior to the inferior vena cava and run obliquely downward to the gonads. In this study, unusual cases of the right gonadal arteries were observed in two Japanese cadavers, one male and one female. They arose from the abdominal aorta below the origin of the right renal artery and passed posterior to the inferior vena cava. They then run obliquely downward and laterally to reach the pelvic cavity. The left testicular artery arose from the renal artery, while the left ovarian artery arose from the abdominal aorta above the origin of the right ovarian artery. With other variation of the gonadal arteries, the embryologic and clinical aspects of the gonadal arteries passing behind the inferior vena cava are discussed.

PD-61.

Di(2-ethylexyl)phthalate 投与マウス精巣の生化学的解析

(大学院単位取得・解剖学第一専攻)
○三浦　由美
(解剖学第一)
寺山　隼人、内藤　宗和、北岡　三幸
小茂田文子、伊藤　正裕

ポリ塩化ビニル製造時の可塑剤として汎用されている Di(2-ethylexyl) phthalate は抗アンドロゲン作用を介した男性生殖器障害 (精巣萎縮)、肝臓のペルオキシソーム増殖および細胞複製作用により肝肥大を誘発させるなど様々な有害作用を有した化学物質であり、現在内分泌撹乱物質として問題視されている。先に我々は、Di(2-ethylexyl)phthalate 2% 含有餌をマウスに自由摂取させた結果、5 日目から精子形成障害が起こり始め、15 日もすると重度な障害を呈する事を観察している。そこで、本研究はその中間の 10 日目という Germ Cell がまさに脱落するという期間に焦点を合わせ、精巣、肝臓、腎臓および膵臓に対する影響を検討する目的で、生化学的解析および組織化学的解析を行ったので報告する。

PD-62.

食事療法の疾病進展予防効果およびそれに関連する心理社会的要因についての研究—慢性腎不全に対する低たんぱく食事療法における検討—

(専攻生・衛生学公衆衛生学専攻)
○金澤　良枝
(衛生学公衆衛生学)
大谷由美子、下光　輝一
(腎臓科)
中尾　俊之

【目的】 食事療法の遵守・実行による疾病治療効果の検討と同時に心理社会的要因との関連性を明らかにすることを目的に、慢性腎不全の低たんぱく食事療法についてとりあげ検討した。

【方法】 対象は、食事療法を初回指導後 3ヶ月以上経過している慢性腎不全患者 65 名 (男 47、女 18)、年齢 61.8±10.6 歳。対象者に食事療法の compliance 評価と腎機能低下速度、QOL の評価 (SF-36)、心理的側面の評価 (POMS)、Self-efficacy 調査、Social support 調査を行い食事療法遵守群 (A) の男性群 (A-m)、女性群 (A-f)、非遵守群 (B) の男性群 (B-m)、女性群 (B-f) で比較検討した。

【結果】 A では B に比較し、腎機能低下速度は抑制されていた。SF-36 のスコアは、男女とも両群間に有意差を認めなかった。POMS による気分、感情の主観的側面の評価スコアは、A-m、B-m の両者間に有意差は認めなかった。しかし A-f と B-f では、「抑うつ-落ち込み」が B-f で有意に ($p<0.05$) 高値であった。Self-efficacy 得点は、A-m では B-m、B-f に比較し有意に高値であった ($p<0.05$)。また A-f は B-f に比較し有意に高値であった ($p<0.05$)。Social support は、A-m では B-m、A-f、B-f に比較し有意に高値であった ($p<0.05$、

$p<0.01$、$p<0.05$)。また、性別と食事療法遵守度に交互作用 ($p<0.05$) を認めた。Social support と self-efficacy 得点の関係は、A-m で有意 ($p<0.01$) の相関関係を認めた。

【結論】 慢性腎不全低たんぱく食事療法を遵守し治療効果を高めるには、男性では social support と、self-efficacy の高さ、一方、女性では self-efficacy の高さが重要であると考えられた。

PD-63.
尿道麻酔の温度差による疼痛に関する検討

(八王子・泌尿器科)
○吉川　慎一、細田　悟、大鶴　礼彦
松本　太郎、山本　豊、松本　哲夫
(霞ヶ浦・泌尿器科)
野田賢治郎、鮫島　剛、伊藤　貴章

【目的】 男性膀胱鏡検査は尿道浸潤麻酔により行われているが疼痛を伴う検査である。今回われわれは疼痛の軽減を目的に尿道麻酔薬の温度による疼痛の比較を質問紙調査にて行ったので報告する。

【対象および方法】 当科およびその関連施設にて初めて膀胱鏡検査を行い質問紙調査に協力の得られた 47 例を対象とした。尿道浸潤麻酔には常温あるい冷蔵 (4°C) の 2% キシロカインゼリーを用いた。原則的に膀胱鏡検査にはオリンパス社軟性膀胱ビデオスコープ (VISERA) を用い仰臥位で行った。検査直後に自記式による質問紙調査を行った。疼痛に関する評価には visual analog scale(VAG) 方式 (0-100 mm) を用い、(1) ゼリー注入時、(2) 内視鏡挿入、(3) 観察時、(4) 終了直後の 4 期に分け検討した。さらに採血、筋肉注射、点滴などの他の処置との疼痛の比較項目を設けた。

【結果】 対象の年齢は 18.1〜82 歳 (中央値 70.5 歳) であった。検査目的は血尿精査目的が最も多く、次いで排尿困難精査であった。上記の 4 期における疼痛に関する評価項目では、常温の群での中央値 (mm) は (1) 12、(2) 20、(3) 20、(4) 10 で、冷蔵の群では (1) 15、(2) 35、(3) 25、(4) 20 であった。

【結語】 今回の検討では尿道麻酔薬の温度差による疼痛の軽減は明らかではなかった。軟性膀胱ビデオスコープの導入により男性患者の検査の疼痛に関する負担は軽減していると考えられるが、女性と比較すると全ての項目で疼痛を感じており麻酔方法を含め更なる検査方法の改善が必要であると思われた。

PD-64.
本学初の脳死下提供腎移植の経験—待機期間 15 年を経て—

(外科学第五)
○今野　理、中村　有紀、城島　嘉麿
岩本　整、濱　耕一郎、岩堀　徹
葦沢　龍人、松野　直徒、長尾　桓

1997 年 10 月に我が国で臓器移植法が施行されて以来、今年 3 月までに 37 例の脳死下臓器提供があった。平成 17 年 2 月、内頚動脈瘤破裂による脳虚血を原因とする本邦 37 例目の脳死ドナーが東京都港区の病院で発生した。その後、肺、肝臓、心臓、膵臓、そして腎臓が各地の施設で移植された。うち一つの腎臓が当科において移植された。

当科で施行された症例は、1990 年に当センターで腎移植希望者登録を済ませた透析歴 20 年の 57 歳女性である。当日の経過としては、日本臓器移植ネットワークより透析中であった患者本人へドナー発生、マッチング第二候補である旨伝えられた。移植手術施行に対する意思確認をした後、至急当センターへの来院を指示した。

来院後は、緊急手術に準じた諸検査に加え、膀胱造影検査、免疫抑制剤の投与を施行した。最終的な意思確認およびインフォームドコンセントを得た上、翌日午前 0 時より腎移植術開始となった。グラフト腎動静脈をレシピエントの外腸骨動静脈へ吻合し、右腸骨窩へ移植した。移植腎血流再開後 8 分で初尿を確認し、尿管膀胱吻合、閉創し手術終了となった。手術時間は 4 時間 21 分、出血量は 1,209 ml であった。

移植後 24 時間で 3,180 ml の尿量を認め、透析は施行していない。血清 Cr 値は術後 5 日で 0.8 mg/dl、BUN 15.8 mg/dl と正常化した。術後免疫抑制療法は、タクロリムス、メチルプレドニゾロン、ミコフェノール酸モチフェル、抗 IL-2 レセプター抗体を使用した。術後経過は順調で拒絶反応等、特記すべき合併症は認めず 3 月下旬退院となった。

現在、我が国における腎移植希望待機登録者数は約 12,000 人であり、臓器不足状態である。意思表示カードは累計約 9,700 万枚配布されているが、昨年秋以降、